



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	スマートフォンがつなぐ博物館のコレクションと物語、そこから生まれる個々人の体験 : ファン・アッペ美術館『デリンキングとリリンキング展』でのSmartifyアプリ利用体験から
Author(s)	島, 絵里子; Shima, Eriko
Citation	博物館学雑誌, 48(2), 47-65
Issue Date	2023-04
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/90200">https://hdl.handle.net/2115/90200</a>
Type	journal article
File Information	JMSJ48_2_47-65.pdf



## 【報告】

## スマートフォンがつなぐ博物館のコレクションと物語、 そこから生まれる個々人の体験：ファン・アッペ美術館 『デリンキングとリリンキング展』での Smartify アプリ利用体験から

Smartphones connect museum collections and stories to individual experiences:  
Experience of using the Smartify app for the Van Abbemuseum “Delinking and Relinking”

島 絵里子\*

Eriko SHIMA

### Abstract:

Focusing on the multi-sensory and multiple perspectives approach of the Van Abbemuseum's “Delinking and Relinking” exhibition in the Netherlands, I organised the information provided by viewing and experiencing the online tour on Smartify app and discussed future possibilities and issues.

キーワード：多感覚 multi-sensory、多角的視野 multiple perspectives、包摂 inclusion、  
脱植民地化 decolonization、デジタルトランスフォーメーション DX

### 1. はじめに

2022年8月24日にICOM(国際博物館会議)で採択された博物館の新たな定義には、博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育むと明記された(ICOM 2022)。博物館のアクセシビリティや包摂性についてはこれまでも議論と実践が積み重ねられてきた。ユネスコの「ミュージアムとコレクションの保存活用、その多様性と社会における役割に関する勧告」では、「ミュージアムは、恵まれない立場のグループを含め、すべてに開かれた、あらゆる人々の身体的・文化的アクセスを保証する場であるべきである。ミュージアムは、歴史的、社会的、文化的、科学的な課題を省察し討議する場になりうる。ミュージアムはまた、人権とジェンダーの平等への敬意を育むべきである」ことや、「ミュージアムは、社会において積極的な役割を演じるためにあらゆるコミュニケーションの手段を活用すること、たとえば、一般市民向けのイベントの企画、関連する文化活動への参画、物理的(physical)またデジタル(digital)な形式の両方を用いて市民と相互交流することなどを、奨励されるべきである」と明記されてい

る(UNESCO 2015)。

一方で、デジタル・トランスフォーメーション<sup>(1)</sup>の動きは世界各地で広がり、博物館においても、インターネットと対面の両面での利用者体験の変革を図ろうとする取り組みが報告されるようになった(たとえば、島 2022)。「ミュージアム・ネクスト」(Museum Next)<sup>(2)</sup>のWebサイト記事では、特に、コロナ禍において多くの博物館がオンライン化へ時間と経費の多くを注ぎ、オンラインでのアクセシビリティの向上及び、ミュージアムショップのオンラインでの売り上げ向上を図ったことが紹介されている(Murphy 2021a)。

本稿では、このような流れの中で、300万ダウンロードと200万作品のデジタル化に至った『Smartify』(スマーティファイ)アプリ<sup>(3)</sup>に焦点を当てる。Smartifyは、スマートフォンに無料でダウンロードできるアプリケーション(以下：アプリ)である。誰でも、どこからでも、作品にアクセスできるだけでなく、関連商品を閲覧・購入したり、自分のお気に入り作品をアプリ上で集めて整理・表示したりできる。さらに、実際に博物館を訪ねるために館のチケットを購入したり、

\*北海道大学 DX 博士人材フェローシップ

原稿受理日：令和4年9月10日

館内では、作品と対面して作品にスマートフォンをかざし、音声ガイドの情報などを得たり、情報をアプリ上に登録していくことが可能である。

Smartify を活用した博物館の実践事例は、『ミュージアム・エデュケーション』(Museum Education) などの学術雑誌や、ミュージアム・ネクストなどのオンライン記事にも報告がみられるようになった。一方で、日本国内の博物館において活用した事例報告は、たとえば、Google や CiNii 及び J-Stage で検索しても該当するものは見つからなかった<sup>(4)</sup>。また、Smartify にはまだ日本語版がないことが PANDAID の Web サイトで報告されている (PANDAID)。

本稿では、ミュージアム・ネクストに、Smartify を活用した記事が複数掲載されているオランダのファン・アッベ美術館 (Van Abbemuseum) の取り組みに着目し、Smartify アプリ及び Web サイトでの発信を視聴・体験し、提供情報を整理した上で、今後の可能性や課題について検討することとした。

## 2. Smartify 概要

Smartify は、2015 年に設立された。Smartify 社の Web サイトによれば、Smartify は「芸術と文化を発見するためのグローバルなプラットフォーム」であり、「博物館、ギャラリー、歴史的な家屋、彫刻公園、ストリートアート、そしてホテルで活動する Smartify は、その場所がコレクションを世界に発信するための無料のモバイルガイド」だという (Smartify 2022a)。

使命には、以下が明記されている。

- ・アートと人の垣根を取り払う
- ・それぞれのオブジェがそのストーリーを語るのを助けることで、来館者に豊かさとインスピレーションを与える
- ・目標は、スマートフォンを気晴らしの道具としてではなく、参加するための道具として捉え直すこと
- ・観客に様々な視点や文化との関わり方を紹介し、観客は自分の心に響くものを見つけることができる

- ・誰でもどこでもアクセスできる
- ・博物館部門、著作権、および個人データを尊重することに重点を置いている (Smartify 2022a)

2022 年 9 月 8 日時点で、Smartify の Web サイトには、スコットランド国立ギャラリーやロンドン・ミュージアム、王立ホロウェイピクチャーギャラリーなど、計 16 館との事例研究が掲載されている (Smartify 2022b)。

### 3. ファン・アッベ美術館 Van Abbemuseum (オランダ) 『デリンキングとリリンキング展』での事例

#### 3.1. 『デリンキングとリリンキング展』の概要及び、Smartify を用いて目指す「多層的な訪問の実現」について—館の Web サイト及びミュージアム・ネクスト記事から—

オランダのアイントホーフェンにあるファン・アッベ美術館は、ヨーロッパで最初に設立された現代美術のための公立美術館の一つである。3,400 点以上の作品コレクションがあり、社会におけるアートの役割について実験的なアプローチを行っており、オープンであること、ホスピタリティ、知識の交換を大切にしている<sup>(5)</sup>。文化的な「記憶」としてのコレクションの役割や公共の場としての美術館など、様々なテーマを取り上げ、自分自身や来館者がアートとその世界における位置づけについて考えることに挑戦している<sup>(5)</sup>。

2021 年 9 月 18 日から 2025 年 7 月 1 日 (予定) にかけて、『デリンキングとリリンキング 多感覚的なコレクション展』(“Delinking and Relinking Multi-sensory collection presentation”、以下『デリンキングとリリンキング展』) が開催されている。館の Web サイトには、以下のように紹介されている<sup>(6)</sup>。

\*\*\*

**【嗅ぐ、さわる、聴く、見るでアートを体感する】  
【Experience art by smelling, touching, hearing and seeing】**

美術館のコレクション棟の 5 つのフロアに 120 点のアート作品を展示する『デリンキングとリリン

キング展』は、アートを違った角度から体験できるように誘う。あるときはさわったり、嗅いだり、聴いたりすることで、またあるときは比喩的に、あまり知られていない様々な声を表現することで。1913年のマルク・シャガール (Marc Chagall) の『アポリネールへのオマージュ』(“Hommage à Apollinaire”) から、2019年のローレ・プルーヴォスト (Laure Prouvost) の『This Means Tableau』まで、1世紀以上に及ぶ美術史の中で、最も刺激的で、時に対立的な作品である。

#### ○多感覚 (Multi-sensory)

点字テキスト、香りのインタープリテーション、触覚ドローイング、サウンドスケープなど、25以上の多感覚ツールを備えた『デリンキングとリリンキング展』は、オランダで初めての完全多感覚コレクションの展示である。また、視覚や聴覚に障害のある方、車いすの方など、多くの方にアクセシブルな展示である (accessible to a wide audience)。

#### ○5つの無料マルチメディア・ツアー (Five free multi-media tours)

展覧会を案内する5種類のメディアツアーが用意されている。イントロダクションツアー (Introduction Tour) とファミリーツアー (Family Tour) は、老若男女を問わず全体的な観覧が可能である。また、より深く鑑賞したい場合は、身体的出会いのツアー (Bodily Encounters Tour)、ラブレターツアー (Love Letters Tour)、より広い視野での物語ツアー (The Broader Story Tour) を選択することができる。スマートフォン (Google Playストア) (Appleストア) で Smartify アプリをダウンロードすれば、無料でツアーにアクセスできる。

#### ○より広い視野 (Broader perspectives)

この展示は、身体的・物理的アクセシビリティ (physical accessibility) の分野の様々な専門家と共同で開発された。また、美術館と長年にわたって協力関係にある The Office of Queer Affairs と Wie Zijn Wij (Who Are We) という二つの利益団体にも相談し、美術館に広い視野を導入する手助けをし

てもらった。

\*\*\*

(Van Abbemuseum Web サイト<sup>(6)</sup>より)

このように、『デリンキングとリリンキング展』は、フィジカル physical (嗅ぐ・聴く・さわる・見る) とデジタル digital (マルチメディアツアー) を組み合わせたアプローチをしているといえるだろう。上述の、5つのマルチメディアツアー及び多感覚 (マルチセンサー) アート作品ツアーで活用されているのが Smartify である。

この展覧会について、ファン・アッペ美術館が展覧会で目指したことや、どのように5つのツアーを作成したかが、ミュージアム・ネクストの記事に記載されている。それによると、館スタッフは、以下のように述べている。「この意図は、オブジェを解放し、現代における価値と重要性を与えることです」、「これは、すべての博物館の基本的かつ不変の課題であると私は考えています。今変わってきているのは、語られる物語の性質とそれを語る人々です。博物館のナラティブを所有するのは、もはや博物館のオーナー、キュレーター、ゲートキーパーだけではありません。21世紀の参加型社会では、様々な背景や経験を持つ人々が、話を聞いてもらう権利を求めているのです」(Murphy 2021b)。

また、この展覧会では以下の2つの要素に焦点を当てたという。1つ目は、「ヨーロッパとアメリカの白人男性を主体とする規範を打ち破り、異なる性別や背景をもつアーティストを紹介する」ことであり、2つ目は、「美術館での鑑賞における「目」の中心性を打破し、より豊かな身体感覚の多様性を歓迎する展示にする」ことであったという (Museum Next 2021)。

どうすれば展示の中の複数の視点や関連性を調べ、深く掘り下げる選択肢を提供し、レイヤー型の美術館訪問を実現できるか (create a layered museum visit) という問いを、この展覧会にあたり館のスタッフは投げかけたという。そして、複数のレイヤーをすべて紹介するために、新しいストーリーテリングの方

法を考え、インタープリテーションには Smartify を用いた (Museum Next 2021)。

展示作品についての様々なリンクや視点を共有するため、約 50 人の構成員やパートナーからなる大規模なグループと協力して、5 つのツアーが作成された。また、博物館にとってインタラクシオンは非常に重要であり、オーディオツアーでそれを失わないように、「ラブレッターツアー」と「ファミリーツアー」は、展示作品とのインタラクシオンを促すツアーになっているという (Museum Next 2021)。

### 3.2. Smartify での 5 つのツアーと、多感覚アート作品ツアーの視聴体験から

2022 年 5 月から 9 月にかけて、5 つのツアー及び多感覚アート作品ツアーについて、スマートフォンにダウンロードした Smartify で実際に視聴・体験し、情報を整理した。なお、実際に来館し、スマートフォンのカメラを作品や QR コードにかざすと表示されるものについては本調査期間においては筆者は体験できておらず、遠方からアプリを用いて利用した記録である。Smartify アプリをダウンロードしたスマートフォンを持っていなくても、Smartify の Web サイトから、同じ内容のツアーを視聴可能であった。

ツアーはいずれも、英語、オランダ語、オランダ語手話を選択できた。手話を選択すると、画面上に、作品と手話の両方が表示された。

各ツアーを選択すると、Smartify の画面には、ツアー名、選択できる言語、時間、箇所 (全部で何箇所あるか)、ツアー概要を説明する文章、収録音声 (あるいは動画もしくはテキスト) すべて、「特集」として数作品、ツアーのクレジット (たとえば、多感覚アート作品ツアーのクレジットでは、オーディオディスクリプションの制作者名、視覚に障害のある人向けの文章を執筆した人の名前、作曲者名や触覚描画の制作者名、アクセシビリティアドバイザーのメンバーなどの名前) が表示された。

以下に、各ツアーを視聴・体験した記録及び整理した情報 (表 1 から表 7) を記載していく。

#### ○イントロダクション・ツアー Introduction Tour

「初めて美術館にいらっしゃいますか？最初から始めたいですか？それならこのツアーで、デリンキングとリリンキングを発見してみませんか？」<sup>(7)</sup>

45 分間・15 収録・18 箇所

<表 1 >

「美術館のコレクションを巡る旅に案内します」<sup>(7)</sup> というイントロダクション・ツアー。『デリンキングとリリンキング展』の概要や、展覧会での美術館側の思い「私たちは、様々な声を聴かせ、視点を明らかにすることで、私たちが生きる多様な世界に思いを馳せていただきたいと思います」<sup>(7)</sup> が伝えられる。また、それぞれの作品について、他のどのツアーでふれられているかについても言及される。

#### ○ファミリー・ツアー Family Tour

「冒険の準備はできていますか？ハッピー・ブロボは迷子になり、家に帰る道を探さなければなりません。あなたは助けられるかな？ポンチョを持って、ハッピー・ブロボを探しに行こう。」<sup>(8)</sup>

45 分・12 収録・12 箇所

<表 2 >

ツアーのはじめに、人間でも動物でも物でもない「ハッピー・ブロボ」に出会う。ブロボは、家に帰りたのに、帰り道が見つからず、ファン・アッベ美術館の別の作品に入り込んでしまうという。スタートで、「作品ごとにブロボの形は変化していきます。すべての作品を探し出し、ブロボが家に帰れるように助けてあげましょう。各部屋にある、特別な色のついた木の形を探します。そこに課題があります。この課題は、ブロボのいるアート作品の場所を知る手がかりになります。この形自体もヒントになっています。まず、一緒に課題をやってみましょう。それから作品を探してください。ブロボの話聞いて、ブロボを助けるために何ができるかを見つけてください。参加してくれますか？」<sup>(8)</sup> と語りかけられる。

ツアーは、参加者と一緒に、ブロボに語りかけるような形ですすんでいく。たとえば、作品「Ombre habitée」(作者 Alicia Penalba) (表 2・No.2) では、「光と闇で遊ぶ」(“Playing with light and dark”) と

表 1. Introduction Tour (イントロダクション・ツアー)

No.	収録タイトル (原文)	収録タイトル (訳)	展示作品名, 作者	場所	時間 (分:秒)
1	Introduction	イントロダクション		Floor 0 Introroom	1:22
2	Close Encounters	クローズ・エンカウンターズ	Le Marchand d' oiseaux, Wifredo Lam	Floor 0 Room 1	1:48
3	The Homesickness of Things	物のホームシック	Figuur, Piet Ouborg	Floor 0 Room 2	1:32
4	As Far As the Eye Can See- Biography of a Portrait	見渡す限り・ある肖像画の伝記	Portret van een toneelspeelster (Tilla Durieux), Charley Toorop	Floor 0 Room 3	1:40
5	Horizons-The Nature of Life	水平線・生命の本質	Hommage à Apollinaire, Marc Chagall	Floor 0 Room 4	1:39
6	New Vision: Harmony	新しい展望 ハーモニー	White Man Got No Dreaming, Michael Rakowitz	Floor 0 Room 5	1:43
7	Beauty and the Right to the Ugly	美と不細工の権利	Beauty and the Right to the Ugly, Wendelien van Oldenborgh	Floor 1 Room 1	1:02
8	Scale	スケール		Floor 1 Room 3	1:15
9	Black Manifesto	ブラック・マニフェスト	Look Mama... Macho!, Rasheed Araeen	Floor 1 Room 4	1:28
10	Models	モデルズ	Models, Marlene Dumas	Floor 2 Room 1	1:38
11	The Ecological Eye	エコロジカル・アイ	New Orleans: Shotgun House with Rainwater-Harvesting Tank, Marjetica Potrč	Floor 2 Room 2	1:26
12	De-Learn	デ・ラーン	This Means Tableau, Laure Prouvost	Floor 2 Room 3	
13	Toxic	有毒	Toxic, Pauline Boudry / Renate Lorenz	Floor 2 Room 4	1:07
14	The Thunderstorm is Slowly Approaching	雷雨はゆっくりと近づいてくる	The Thunderstorm is Slowly Approaching, Qiu Zhijie	Floor 2 Room 5	1:31
15	Smoke	煙	Smoke, Roy Villevoeye	Floor 2 Room 5	1:33

いうタイトルで、前半で作品の影や暗闇に注目したあと、後半ではこう語りかけられる：「アルゼンチンからパリに移り住んだ作家は、見知らぬ世界にたどり着いた。言葉も通じない、知り合いもない...それはとても怖いことで、自分の道を見つけ、くつろげるよ

うになるまでには時間がかかる。プロブ、本当に怖がる必要はないんだよ。だって、影は変えられるんだから。風と一緒に、あるいは太陽の光と一緒にどこかへ飛んでいって、そこで会おう！」<sup>(8)</sup>。

○ラブレター・ツアー Love Letters Tour

表 2. Family Tour (ファミリー・ツアー)

No.	収録タイトル (原文)	収録タイトル (訳)	展示作品名, 作者	場所	時間 (分:秒)
1	Start	スタート		Floor 0 Introtour	0:53
2	Playing with light and dark	光と闇で遊ぶ	Ombre habitée, Alicia Penalba	Floor 0 Room 1	1:20
3	A nice spot	素敵な場所	Composition avec des cordes, Joan Miró	Floor 0 Room 2	1:16
4	Swim!	泳ぐ!	Le bain des vagabonds, Jean Brusselmans	Floor 0 Room 4	1:09
5	Square?	四角い?	Reliëf met zwarte en witte blokken, Ad Dekkers	Floor 0 Room 5	1:01
6	How far?	距離は?		Floor 1 Room 3	0:50
7	What is a hero?	ヒーローって何?	Proud Rebels (Gloria Wekker), Patricia Kaersenhout	Floor 2 Room 1	1:12
8	Strong together	強い仲間たち	Precarious task #10 - Go to a bar located over 20 km from a museum to drink, discuss and watch a film about nuclear power problem, Koki Tanaka	Floor 2 Room 2	1:22
9	Tiny house	小さな家	New Orleans: Shotgun House with Rainwater-Harvesting Tank, Marjetica Potrč	Floor 2 Room 2	1:45
10	In your fantasy	空想の中で	This Means Tableau, Laure Prouvost	Floor 2 Room 3	1:19
11	Home	故郷	The Thunderstorm is Slowly Approaching, Qiu Zhijie	Floor 2 Room 5	0:53
12	Ending	エンディング		Floor 2	0:27

「あなたは、作品を心から愛したことがありますか？  
作品と観客の会話に耳を傾けてみてください。」<sup>(9)</sup>

30分・19収録・12箇所

<表 3>

来館者もしくは Smartify 視聴者は、12 作品それぞれについて、「まるでアート作品自身が書いたかのように」<sup>(9)</sup> 作成された広告を見聴きしたのち、ラブレターを返信できるというもの。返信は、指定された電話番

号へ電話をかけ、それぞれの作品に指定された番号を入力して、返事をする（電話で話す）ことができる。クイア・アフェア事務局（Office of Queer Affairs）が、これらのラブレターをすべて確認し、Smartify ラブレター・ツアーに追加していく（Museum Next 2021）。ラブレターは、数か月ごとに収集、フィルタリング、マスタリングされ、Smartify アプリに追加されているという<sup>(9)</sup>。

表3. Love Letters Tour (ラブレター・ツアー)

No.	収録タイトル (原文)	収録タイトル (訳)	展示作品名, 作者	場所	時間 (分:秒)
1	Intro	イントロ		Introroom	1:11
2	ISO a third prince	第三の王子様 (ISO)	Prinsenpaar, Lucebert	Floor0 Room 4	0:31
3	Love letters in response to; Iso a third prince	ラブレターの返事; 第三の王子様 (ISO)		Floor0 Room 4	1:12
4	Cunnilingus Spoken Here	クニリングスはここで語られる	Concetto Spaziale: Attese, Lucio Fontana	Floor0 Room 5	0:28
5	Love letters in response to Cunnilingus Spoken Here	ラブレターの返事; クニリングスはここで語られる		Floor0 Room 5	1:44
6	Join my fanclub	私のファンクラブに参加する	White Man Got No Dreaming, Michael Rakowitz	Floor0 Room 6	0:36
7	Love Letters in response to Join my fanclub	ラブレターの返事; 私のファンクラブに参加する		Floor0 Room 6	0:37
8	Scapegoats' Requite	スケープゴートの返礼	Look Mama... Macho!, Rasheed Araeen	Floor 1 Room	0:51
9	Time Traveler 4 Gardner	タイムトラベラー 4 ガードナー	The New Utopia Begins Here: Octavia E. Butler, Iris Kensmil	Floor 2 Room 1	0:38
10	Love Letters in response to Time Traveler 4 Gardner	ラブレターの返事; タイムトラベラー 4 ガードナー		Floor 2 Room 1	0:53
11	For Ecstasy	エクスタシーのために	Angela Davis #2, Iris Kensmil	Floor 2 Room 1	0:34
12	Love Letters in response to For Ecstasy	ラブレターの返事; エクスタシーのために		Floor 2 Room 1	0:33
13	Dust	ダスト	Scaffolding Series (Isopolity, Loss, The Tropical, In Partitions, The Beginning), Otobong Nkanga	Floor 2 Room 2	0:39
14	This means pussy	これはつまり、プッシー	This Means Tableau, Laure Prouvost	Floor 2 Room 3	0:34
15	Love Letters in response to; This means pussy	ラブレターの返事; これはつまり、プッシー		Floor 2 Room 3	0:19
16	Chaotic top has much to offer	カオスなトップは、多くのものを提供する	Dit Learn, Laure Prouvost	Floor 2 Room 3	0:26
17	Got a light?	ライトはある?	Toxic, Pauline Boudry / Renate Lorenz	Floor 2 Room 4	0:31
18	bind to me	私にしばって	À Bras Le Corps - with Philodendron (to Amalia Pica), Céline Condorelli	Floor 2 Room 5	0:42
19	A wild ride	ワイルド・ライド	Queer Desire is Wild; I am a Deer, Nilbar Güreş	Floor 2 Room 5	0:36

表4. Bodily Encounters Tour (身体的出会いのツアー)

No.	収録タイトル (原文)	収録タイトル (訳)	展示作品名, 作者	場所	時間 (分:秒)
1	Introduction	イントロダクション		Floor 0 Intro Room	0:32
2	Simon Dogger & Hedwig Hooghiemstra on Zadkine	サイモン・ドッガー&ヘドウィグ・ホーヒームストラ on ザッキネ	Saint Sébastien, Ossip Zadkine	Floor 0 Room 0	2:02
3	Mari Sanders on Fontana	マリ・サンダース on フォンタナ	Concetto Spaziale: Attese, Lucio Fontana	Floor 0 Room 5	2:23
4	Jascha Blume on Dumas	ヤッシャ・ブルーメ on デュマ	Models, Marlene Dumas	Floor 2 Room 1	4:03
5	Angelo Custodio on Gures	アンジェロ・クストーディオ on グレス	Queer Desire is Wild; I am a Deer, Nilbar Güreş	Floor 2 Room 5	3:00
6	Barbara Strating on Villevoeye	バーバラ・ストラティング on ヴィルヴォワイア	Smoke, Roy Villevoeye	Floor 2 Room 5	7:03

2022年9月8日時点で、6作品について、それぞれ返信されたラブレターの声が Smartify に追加されており、いずれも、各来館者が電話に語りかけたそのままの音声で収録されていた。このため、音声言語はオランダ語や英語であったが、テキストは他の収録と同様、英語も選択可能だった。

#### ○身体的出会いのツアー Bodily Encounters Tour

「自分の身体への意識を高めることで、何が得られるのか？他人の身体から何を学ぶのか？このツアーに参加してみてください。」<sup>(10)</sup>

30分・6収録・5箇所

<表4>

イントロダクションにおいて、「私たちの身体は、私たちが周囲の世界をどのように理解し、どのようにアプローチするかを教えてください。それは、私たちが逃れられないものであると同時に、私たちの視点や興味を定義するものでもあります。アートも例外ではありません。このツアーでは、美術館が障害のある美術関係者を招き、コレクションとの新しい出会いを促しました。他人の身体を通して理解することで何を学び、自分の身体への認識を深めることで何をできるのでしょうか。このツアーに参加してみてください」<sup>(10)</sup>と語られる。

たとえば、作品「Concetto Spaziale: Attese」(作

者 Lucio Fontana) と対面した際のマリ・サンダース氏の思いが、ツアー内3つ目「マリ・サンダース on フォンタナ」に収録されている(表4・No.3)。作品は、フォンタナによる「Tagli」(Cut: 切り口) シリーズであり、均一な色彩の表面と、刃物で切り裂かれた激しい裂け目の緊張が特徴的である(Guggenheim)。マリは語る、なぜこの一枚に意識が集中するのか。「完璧な不完全性。私の車椅子のシンボルとしての切り口」、「あえて弱くなることの始まりでもある。切り口は災難ではない。むしろ、表面から湧き上がるための開口部なのだ。それは、解放」<sup>(10)</sup>。5つ目「アンジェロ・クストーディオ on グレス」(表4・No.5)では、最初に音楽が流れ、そして語りが始まる。羽ばたくような音、祈りのような歌、詩の語り。作品「Queer Desire is Wild; I am a Deer」(作者 Nilbar Güreş) に対面したアンジェロ・クストーディオ氏が書いた詩が読まれる。詩の題名は「手つかずの無秩序」(“Untamed Disorder”)。

それぞれの作品に向かい合った人々の思いが、会話や、詩などの形で表現され、ツアー参加者に投げかけられている。

#### ○より広い視野での物語ツアー Broader Story Tour

「ファン・アッペ美術館の起源は、植民地時代のインドネシアのタバコ農園にあることをご存知ですか？芸術や芸術施設は、いまだに植民地主義にどのように

根ざしているのでしょうか。アーティストたちは、この影響にどう対応しているのでしょうか。このツアーでは、様々な分野の17人が、作品やオブジェを見ながら考察を深めていきます。」<sup>(11)</sup>

45分・20収録・20箇所

<表5>

17名の思いが、それぞれに語られていく。たとえば、7つ目(表5-No.7)の収録では、作品「Wooden wajang topèngmask depicting Semar」(作者不詳)について、レスリー・スミッツ氏の「私がコレクションする理由」(“Why I Collect”)が語られた。レスリー氏は、インドネシア側とオランダ側に家族をもち、自分自身は肌の色が明るい茶色であるため、オランダ人として見られることはなかったと語る。そして、祖父母と自分のルーツをつなぐかのように、ワヤン人形や仮面を集めていったこと、自分のコレクションが自分の遺産を表現し、この文化を息子に残す方法であることに気づいたと語っている<sup>(11)</sup>。

19番目(表5-No.19)『「捕らわれ人」:すべての運命のためにここに心がある』では、作品「The Captive: Here's a Heart for Every Fate」(作者 Mercedes Azpilicueta)について、作者であるメルセデス・アスピリクエタ氏自身が、その思いを語っている。最初に、歌声から始まり、メルセデス氏の語りが続く。作品は、公式の歴史からほとんど排除されてきた、アルゼンチン19世紀の歴史上の人物やフェミニズムの先駆者と関わっているということ。タペストリーは、植民地時代の切手や絵など、様々な歴史的描写のコラージュで構成されており、作者自身にとって重要だったのは、不思議な、あるいは超現実的な視点からこのアーカイブ素材にアプローチすること、つまり、予期せぬ組み合わせが見つかるようにイメージを並べ替えることだったということ。そして、歴史、アート、工芸といった分野の垣根を越えて、時代やカテゴリーを不安定にし、現在から歴史を導き出す、あるいは望む未来へと、彼らの声をこの物語に再び登場させた、と語られた<sup>(11)</sup>。

○多感覚アート作品 Multi Sensory Artworks

「本展では、五感で感じることのできる作品がいくつかあります。このツアーでは、どのような作品が多感覚的に解釈されているのかをご紹介します。嗅いで、さわって、聴いてみてください。ただし、作品にさわることができるのはレプリカのみで、オリジナル作品にはさわることができません。」<sup>(12)</sup>

1時間・38収録・30箇所

<表6>

展覧会には、さわることのできる作品や、香りの作品が複数展示されている。オリジナル作品の横に、さわることのできる作品や、においのカードが置いてあり、人の背丈を超えるほどの大きな作品などについては、人の手に届く範囲の大きさに縮小されて作られたレプリカが、オリジナル作品の横に展示されている。Smartifyではそれらについてのガイド音声があるほか、オリジナル作品から作曲された曲も複数ある<sup>(12)</sup>。音声テキストは、前述のように、視覚障害教育の専門家によるものであり、クレジットには、その名前や、作曲家や演奏者などの名前も明記された。アンビエントと呼ばれる香りも様々な場所に置かれ、香りの理由や構成、また、一部の作品のために作曲された音楽についても、音楽が流れるだけではなく、テキストでその解説があった。たとえば、作品「Interrogation (what kind of bird are you?)」(作者: Max Ernst)から作曲された収録(表6-No.4)では、まず、「最適な体験をするために、ヘッドホンをつけて音楽を聴くことをお勧めします。音楽はアートの隠れた物語をどのように伝えるのでしょうか？」というメッセージが流れ、後半では、「この絵は私たちに何を問いかけようとしているのだろうか。もしかしたら、音楽がそれを解き明かす手助けをしてくれるかもしれない」と語られた<sup>(12)</sup>。

ツアーのイントロダクションでは、「触覚的な作品に関しては、両手でさわるのが一番です。必要であれば、白杖などを置いて、一步一步テキストをたどってください。必要であれば、しばらく音を消してください。念のため、右足、腕、手について言及されている場合、これはモデルの視点からの意味であり、私たち

表5. Broader Story Tour (より広い視野での物語ツアー)

No.	収録タイトル (原文)	収録タイトル (訳)	展示作品名, 作者	場所	時間 (分:秒)
1	Reggie Baay / Colonialism	レジー・ベイ / コロナリズム		Floor 0 Introroom	2:39
2	Reggie Baay / Van Abbe, Tobacco and Deli	レジー・ベイ / ファン・アッベ、タバコ、デリ		Floor 1	3:58
3	Reggie Baay / To decolonize and demodernise	レジー・ベイ / 脱植民地化と脱近代化のために		Floor 0	3:12
4	Inez van der Scheer / Wifredo Lam	イネス・ヴァン・デル・シェール / ウィフレッド・ラム	Le Marchand d' oiseaux, Wifredo Lam	Floor 0 Room 1	1:34
5	Reggie Baay / Searching For The Origin	レジー・ベイ / 原点を探して		Floor 0 Room 2	0:28
6	Bibi de Vries / Ouborg	ビビ・ド・フリース / ウボーク	Landschap, Piet Ouborg	Floor 0 Room 2	2:25
7	Leslie Smits / Why I Collect	レスリー・スミッツ / 私がコレクションする理由	Wooden wajang topèngmask depicting Semar, Unknown	Floor 0 Room 2	1:33
8	Sadijah Boonstra / Wayang	サディア・ブーンストラ / ワヤン	Javaanse danser: Raden Mas Jodjana, Isaac Israëls	Floor 0 Room 3	1:41
9	Silvan Vasilda / De Javaabse Dancer, Raden Mas Jodjana	シルヴァン・ヴァシルダ / デ・ジャバブセ・ダンサー、ラデン・マス・ジョジャナ	Javaanse danser: Raden Mas Jodjana, Isaac Israëls	Floor 0 Room 3	1:49
10	Reggie Baay / Searching for connection	レジー・ベイ / つながりを求めて		Floor 1	0:26
11	Hannah Vollam / Stanley Brouwn	ハンナ・ヴォラム / スタンリー・ブルーン	10.000 mm (= 10 m), Stanley Brouwn	Floor 1 Room	1:52
12	Shafiq Omar / Rasheed Araeen	シャフィク・オマール / ラシード・アラエーン	Look Mama... Macho!, Rasheed Araeen	Floor 1 Room 4	1:41
13	Reggie Baay / Resistance	レジー・ベイ / 抵抗		Floor 2	0:44
14	Courtney Wood / The black woman	コートニー・ウッド / ザ・ブラック・ウーマン	Angela Davis #2, Iris Kensmil	Floor 2 Room 1	1:02
15	Shammai Martis / Proud Rebels	シャマイ・マーティス / 誇り高き反抗者たち	Proud Rebels (Gloria Wekker), Patricia Kaersenhout	Floor 2 Room 1	1:01
16	Emestine Comvalius / The future of the arts	エメスティン・コンヴァリウス / 芸術の未来	Proud Rebels (Ernestine Comvalius), Patricia Kaersenhout	Floor 2 Room 1	1:31
17	Karabbing Film Collective about decolonizing	カラビング・フィルム・コレクティブ 脱植民地化について		Floor 2 Room 2	1:30
18	Persly Burnett / Patchwork	パースリー・バーネット / パッチワーク	Scaffolding Series (Isopolity, Loss, The Tropical, In Partitions, The Beginning), Otobong Nkanga	Floor 2 Room 2	1:17
19	Mercedes Azpilicueta / The Captive: Here' s a Heart for Every Fate	メルセデス・アスピリクエタ / 『捕らわれ人』: すべての運命のためにここに心がある	The Captive: Here' s a Heart for Every Fate, Mercedes Azpilicueta	Floor 2 Room 5	3:46
20	Rolando Vazquez about Decolonising	ロランド・バスケス 脱植民地化について		Floor 2	1:11

表6. Multi Sensory Artworks (多感覚アート作品)

No.	収録タイトル (原文)	収録タイトル (訳)	展示作品名, 作者	場所	時間 (分:秒)
1	Introduction	イントロダクション		Ground Floor	1:22
2	Tactile relief   Text Description, Buste de femme	触覚レリーフ   テキスト説明、女性の胸像	Buste de femme, Pablo Picasso	Floor 0 Room 1	2:41
3	Tactile relief   Text Description, Le Marchand d' Oiseaux	触覚レリーフ   テキスト説明、Le Marchand d' Oiseaux	Le Marchand d' oiseaux, Wifredo Lam	Floor 0 Room 1	4:35
4	Musical Composition   Text Description, Interrogation (what kind of bird are you?)	作曲   テキスト解説、尋問(あなたは何鳥?)	Interrogation (what kind of bird are you?), Max Ernst	Floor 0 Room 2	3:16
5	Tactile Drawing   Text Description Hurkende vrouw	触覚ドローイング   テキスト説明 Hurkende vrouw	Hurkende vrouw, Piet Ouborg	Floor 0 Room 2	2:20
6	Tactile Drawing   Text Description, Voorover	触覚ドローイング   テキスト説明	Voorover, Piet Ouborg	Floor 0 Room 2	2:00
7	Tactile relief   Text Description, Portrait of an Actress(Tilla Durieux)	触覚レリーフ   テキスト説明 女優の肖像 (ティラ・デュリュール)	Portret van een toneelspeelster (Tilla Durieux), Charley Toorop	Floor 0 Room 3	2:41
8	Tactile relief   Text Description, Javanese Dancer(Raden Mas Jodjana)	触覚レリーフ   テキスト説明、ジャワの踊り子 (Raden Mas Jodjana)	Javaanse danser: Raden Mas Jodjana, Isaac Israëls	Floor 0 Room 3	4:17
9	Tactile relief   Text Description, Kid Oliveiria(Boxer)	触覚レリーフ   テキスト説明、キッド・オリヴェイラ (ボクサー)	Kid Oliveira (Boxer), Wim van de Plas	Floor 0 Room 3	2:20
10	Artwork   Text Description, Hommage a Apollinaire	アートワーク   テキスト説明 アポリネールへのオマージュ	Hommage à Apollinaire, Marc Chagall	Floor 0 Room 4	3:40
11	Scent card   Text Description, Hommage a Apollinaire	香りのカード   テキスト説明、アポリネールへのオマージュ	Hommage à Apollinaire, Marc Chagall	Floor 0 Room 4	2:43
12	Artwork   Text Description, Common Logging-house	アートワーク   テキスト説明、一般的なログハウス	Volkslogement, Charley Toorop	Floor 0 Room 4	2:15
13	Scent card   Text Description, Common Logging-house	香りカード   テキスト説明、一般的なログハウス	Volkslogement, Charley Toorop	Floor 0 Room 4	3:01
14	Artwork   Text Description, Yearly Fair in Sicily	アートワーク   テキスト説明、シチリア島の年中行事	Siciliaanse jaarmarkt, Gé Röling	Floor 0 Room 4	2:29
15	Scent card   Text Description, Yearly Fair in Sicily	香りカード   テキスト説明、シチリア島の年中行事	Siciliaanse jaarmarkt, Gé Röling	Floor 0 Room 4	2:42
16	Artwork   Text Description, Le bain des vagabonds	アートワーク   テキスト説明、孤児の部屋	Le bain des vagabonds, Jean Brusselmans	Floor 0 Room 4	2:37
17	Scent card   Text Description, Le bain des vagabonds	香りのカード   テキスト説明、孤児の部屋	Le bain des vagabonds, Jean Brusselmans	Floor 0 Room 4	2:42
18	Artwork   Text Description, The Sower	アートワーク   テキスト説明、種をまく人	De zaaier, Constant Permeke	Floor0 Room 4	1:14
19	Scent card   Text Description, The Sower	香りのカード   テキスト説明、種をまく人	De zaaier, Constant Permeke	Floor0 Room 4	2:48

表6. Multi Sensory Artworks (多感覚アート作品) (続き)

No.	収録タイトル (原文)	収録タイトル (訳)	展示作品名, 作者	場所	時間 (分:秒)
20	Musical composition   Text Description	作曲   テキスト解説	Compositie XIV, Piet Mondrian	Floor 0 Room 5	3:00
21	Tactile object   Text Description, Stage Set Model for Michel Seuphor's 'L' Ephemere est eternal	触覚オブジェクト   テキスト解説、ミシェル・スーフォーの「L' Ephemere est eternal」の舞台装置模型	Stage Set Model for Michel Seuphor's 'L' Ephemere est eternal', Piet Mondrian	Floor 0 Room 5	2:53
22	Tactile relief   Text Description, Big Square Relief	触覚レリーフ   テキスト解説、大きな四角いレリーフ	Groot kwadratenreliëf, Jan Schoonhoven	Floor 0 Room 6	
23	Tactile relief   Text Description, Black and White Cubes	触覚レリーフ   テキスト解説、黒と白の立方体	Reliëf met zwarte en witte blokken, Ad Dekkers	Floor 0 Room 6	2:25
24	3D Tactile Object   Audio Discription by Simon Dogger, White Man Got No Dreaming	3D 触覚オブジェクト   音声ガイド: サイモン・ドッガー、White Man Got No Dreaming	3D Tactile Object - White Man Got No Dreaming, Simon Dogger & Stijn Boemaars	Floor 0 Room 6	3:54
25	Artwork   Audio Discription by Simon Dogger, White Man Got No Dreaming	アートワーク   オーディオ・ディスクリプション: サイモン・ドッガー、White Man Got No Dreaming	White Man Got No Dreaming, Michael Rakowitz	Floor 0 Room 5	4:37
26	Ambient Scent   Text Discription, Rineke Dijkstra	アンビエントの香り   テキスト解説、Rineke Dijkstra	Jalta, Oekraïne, 30 juli, Rineke Dijkstra	Floor 2 Tower	1:36
27	Tactile Drawing   Text Discription, The New Utopia Begins Here: Octavia E. Butler	触覚ドローイング   テキスト解説、新しいユートピアはここからはじまる: オクタヴィア・E・バトラー	The New Utopia Begins Here: Octavia E. Butler, Iris Kensmil	Floor 2 Room 1	2:40
28	Tactile Drawing   Text Discription, Angela Davis #2	触覚描画 / テキスト解説、アンジェラ・デイヴィス #2	Angela Davis #2, Iris Kensmil	Floor 2 Room 1	
29	Tactile Drawing   Text Discription, Proud Rebels-Philomena Essed	触覚描画 / テキスト解説、誇り高き反抗者たち・フィロメナ・エセド	Proud Rebels (Philomena Essed), Patricia Kaersenhout	Floor 2 Room 1	3:15
30	Tactile Drawing   Text Discription, Proud Rebels-Gloria Wekker	触覚描画 / テキスト解説、誇り高き反抗者たち・グロリア・ウェッカー	Proud Rebels (Gloria Wekker), Patricia Kaersenhout	Floor 2 Room 1	2:57
31	Tactile Drawing   Text Discription, Elly Strik, Untitled	触覚描画 / テキスト解説、エリー・ストライク	Zonder titel, Elly Strik	Floor 2 Room 1	3:23
32	Tactile Drawing   Text Discription, Promised Paintings-Angel 2	触覚描画 / テキスト解説、約束された絵画		Floor 2 Room 1	2:35
33	3D Tactile Object   Text Discription, New Orleans Shotgun House with Rainwater Harvesting Tank	3D 触覚オブジェクト   テキスト解説、雨水利用タンクを備えたニューオーリンズのショットガンハウス	New Orleans: Shotgun House with Rainwater-Harvesting Tank, Marjetica Potrč	Floor 2 Room 3	4:11
34	Ambient Scent   Text Discription, Dit Learn	アンビエントな香り   テキスト解説、Dit Learn	Dit Learn, Laure Prouvost	Floor 2 Room 3	
35	Ambient Scent   Text Discription, A Bras Le Corps-With Philodendron (to Amelia Pica)	アンビエントの香り   テキスト解説、A Bras Le Corps-With Philodendron (to Amelia Pica)	À Bras Le Corps - with Philodendron (to Amalia Pica), Céline Condorelli	Floor 2 Room 5	2:22
36	Artwork   Audio Discription by Joan Kuhlman, The Captive: Here's a Heart for Every Fate	アートワーク   音声解説: ジョーン・クールマン『捕らわれ人』: すべての運命のためにここに心がある	The Captive: Here's a Heart for Every Fate, Mercedes Azpilicueta	Floor 2 Room 5	5:22
37	Music Composition + Text Discription, Queer Desire is Wild; I am a Deer	作曲 + テキスト解説   クイア・デザイアはワイルド; 私は鹿	Queer Desire is Wild; I am a Deer, Nilbar Güreş	Floor 2 Room 5	4:01
38	Musical Composition   Self Comtemporary	作曲   セルフ・コンテンポラリー	Self-Contemporary, Evi Vingerling	Floor 3	4:46

表7. 複数のツアーで取り上げられている作品

展示作品名, 作者	Introduction Tour	Family Tour	Love Letter Tour	Bodily Encounters Tour	Broader Story Tour	Multi Sensory Artworks
Le Marchand d'oiseaux, Wifredo Lam	2. Close Encounters	-	-	-	4. Inez van der Scheer / Wifredo Lam	3. Tactile relief   Text Description, Le Marchand d' Oiseaux
Portret van een toneelspeelster (Tilla Durieux), Charley Toorop	4. As Far As the Eye Can See-Biography of a Portrait	-	-	-	-	7. Tactile relief   Text Description, Portrait of an Actress(Tilla Durieux)
Javaanse danser: Raden Mas Jodjana, Isaac Israëls	-	-	-	-	8. Sadiyah Boonstra / Wayang 9. Silvan Vasilda / De Javaabse Dancer, Raden Mas Jodjana	8. Tactile relief   Text Description, Javanese Dancer(Raden Mas Jodjana)
H o m m a g e à Apollinaire, Marc Chagall	5. Horizons-The Nature of Life	-	-	-	-	10. Artwork   Text Description, Hommage a Apollinaire
White Man Got No Dreaming, Michael Rakowitz	-	-	6. Join my fanclub	-	-	24. 3D Tactile Object   Audio Discription by Simon Dogger, White Man Got No Dreaming 25. Artwork   Audio Discription by Simon Dogger, White Man Got No Dreaming
Look Mama... Macho!, Rasheed Araeen	-	-	8. Scapegoats' Requite	-	12. Shafiq Omar / Rasheed Araeen	-
Models, Marlene Dumas	10. Models	-	-	4. Jascha Blume on Dumas	-	-
New Orleans: Shotgun House with Rainwater-Harvesting Tank, Marjetica Potrč	11. The Ecological Eye	9. Tiny house	-	-	-	33. 3D Tactile Object   Text Discription, New Orleans Shotgun House with Rainwater Harvesting Tank
This Means Tableau, Laure Prouvost	-	10. In your fantasy	14. This means pussy	-	-	-
Toxic, Pauline Boudry / Renate Lorenz	13. Toxic	-	17. Got a Light?	-	-	-

表 7. 複数のツアーで取り上げられている作品 (続き)

展示作品名, 作者	Introduction Tour	Family Tour	Love Letter Tour	Bodily Encounters Tour	Broader Story Tour	Multi Sensory Artworks
The Thunderstorm is Slowly Approaching, Qiu Zhijie	14. The Thunderstorm is Slowly Approaching	11. Home	-	-	-	-
Smoke, Roy Villevoeye	15. Smoke	-	-	6. Barbara Strating on Villevoeye	-	-
Reliëf met zwarte en witte blokken, Ad Dekkers	-	5. Square?	-	-	-	23. Tactile relief   Text Description, Black and White Cubes
Tactile Drawing   Text Discription, Proud Rebels-Gloria Wekker	-	7. What is a hero?	-	-	15. Shammai Martis / Proud Rebels	30. Tactile Drawing   Text Discription, Proud Rebels-Gloria Wekker
Concetto Spaziale: Attese, Lucio Fontana	-	-	4. Cunnilingus Spoken Here	3. Mari Sanders on Fontana	-	-
Angela Davis #2, Iris Kensmil	-	-	11. For Ecstasy	-	14. Courtney Wood / The black woman	28. Tactile Drawing   Text Discription, Angela Davis #2
Scaffolding Series (Isopolity, Loss, The Tropical, In Partitions, The Beginning), Otobong Nkanga	-	-	13. Dust	-	18. Persly Burnett / Patchwork	-
Dit Learn, Laure Prouvost	-	-	16. Chaotip top has much to offer	-	-	34. Ambient Scent   Text Discription, Dit Learn
À Bras Le Corps - with Philodendron (to Amalia Pica), Céline Condorelli	-	-	18. Bind to me	-	-	35. Ambient Scent   Text Discription, A Bras Le Corps-With Philolendron (to Amelia Pica)
The Captive: Here's a Heart for Every Fate, Mercedes Azpilicueta	-	-	-	-	19. Mercedes Azpilicueta / The Captive: Here's a Heart for Every Fate	36. Artwork   Audio Discription by Joan Kuhlman, The Captive: Here's a Heart for Every Fate
Queer Desire is Wild: I am a Deer, Nilbar Güreş	-	-	19. A Wild ride	5. Angelo Custodio on Gures	-	37. Music Composition + Text Discription, Queer Desire is Wild: I am a Deer

にとっては、これらの手足を作品の左側で感じるということですが」ということも語られ、また、香りの作品では、「作品の右側にあるトレイから、香りカードを取ってください。もしよろしければ、ソファに静かに座ってください」というメッセージが流れた<sup>(12)</sup>。

#### ○複数のツアーで取り上げられている作品

表7にまとめた。合計21の作品が、異なる文脈のツアーにおいて、それぞれ異なった視点・切り口から紹介されていた。

#### 4. 考察

実際に自分自身がアプリやWebサイトを通して『デリンキングとリリンキング展』を視聴・体験して感じたことは、1つの展覧会において、複数の文脈でのツアーが用意されていることで、より多角的に作品を見つめることができたということである。また、1つのツアーにおいても、たとえば、「ラブレーター・ツアー」(表3)においては、他の来館者の複数の声(ラブレーターの返事)を、その声のまま聴くことができ、臨場感や、自分自身がまったく想像しなかったことを聴いて感じたり、そのうえでまた作品を画面上で見つめ直すことができた。また、「身体的出会いのツアー」(Bodily Encounters Tour、表4)では、特に、車椅子ユーザーであるマリ・サンダース氏の語り(表4-No.3)が自分自身には深く印象に残り、他のツアーや自分自身では想像できなかった思いに心を寄せることができた。

筆者が普段の生活の中で会話を交わすのは、家族や友人、同僚などが中心であり、博物館に足を伸ばす際も、一人であったり、家族や友人と行く場合が多い。そこで起きる会話—友人や、博物館の学芸員やボランティアなどとの会話は、刺激的で、資料の見方や、資料への自分自身の思いも深まったりする。これらは、Falk&Dierking(2000)の社会文化的コンテキストといえるだろう。一方で、特に自由見学の場合、その空間でやりとりするのは、上述のように家族や友人、学芸員などの博物館スタッフやボランティアということが多く、他の来館者とそこで出会い対話をはじめるといことはなかなかない——館のワークショップなど

に参加しないかぎりは。博物館では魅力的なワークショップも数多く行われているが、時間や、事前申込制(抽選)などで参加できないという人もいるだろう。そのような中で、ファン・アッベ美術館『デリンキングとリリンキング展』のオンラインツアーでは、特に、日本国内に暮らしている日々の中ではなかなか出会うことのできない人々のアートへの声を、いつでも、自分の時間のあるときに、スマートフォンから聴くことができた。インドネシアとオランダの両方にルーツのあるオランダ人であるレスリー・スミッツ氏の、ワヤン人形や彫刻などのコレクションへの思い「私がコレクションする理由」(表5-No.7)は、特に心に残った。

ファン・アッベ美術館は、オランダの美術館のネットワーク「Musea Bekennen Kleur」(博物館は色を見る)に参加し、多様性とインクルージョンを推進している(McGivern 2020)。「Musea Bekennen Kleur」では、オランダの複数の博物館や研究機関、外部の研究者やエドゥケーターの協働により、博物館での多様性と社会包摂を達成するために、ピアレビューや展覧会・イベントの企画などを行っている(八巻2022)。ファン・アッベ美術館では、10年以上前から、政治的な関与を伴う「脱植民地主義」プログラムを実施しており、オランダの国民性を問う2年間のプロジェクトで、2006年にモンドリアン基金から文化多様性賞を受賞した(McGivern2020)。美術館のスタッフは、脱植民地化には、痛みを伴うハードワークが必要だと述べているという(McGivern 2020)。同館では、テーマごとに4~5人のアーティストが対応する展覧会シリーズ「ポジション」を2014年から開催した(Montmann 2021)。「ポジション」は、コラボレーションによって作成されたアートに焦点を当てており、2023年5月13日から9月24日までは、「ポジション#7 価値あるものはすべて、他の人と一緒に行うもの」(“Positions #7 Everhthing worthwhile is done with other people”)が開催される<sup>(13)</sup>。2019年11月から2020年3月にかけて開催された「ポジション#5 語られざるストーリーを語る」(“Positions #5 Telling Untold Stories”)では、オラ

ンダ在住の移住歴をもつアーティスト (artists from migrant backgrounds living in the Netherlands) 5名が、出身社会の歴史のエピソードを物語る作品を発表した (Montmann 2021)。e-flux<sup>(14)</sup>オンライン記事には、以下のように紹介された—「5人のアーティストが、個人的な歴史や公的なアーカイブから引き出された証拠を用いて、忘れられた、あるいは沈黙した物語を再び紹介する」(e-flux 2019)。このシリーズで紹介された作品は、植地的な力関係を永続させるグローバル金融資本主義の帝國的な経済関係ではなく、脱植民地化と移住の経験に基づくグローバリゼーションの考え方を伝え、状況に応じた行動の選択肢 (situation-specific options for action) を指し示すものであったという (Montmann 2021)。

『デリンキングとリリンキング展』の「より広い視野での物語ツアー」(Broader Story Tour、表5)では、17人の人々の作品についての語りを聴くことができた。脱植民地化の話題やオランダの美術館やアートの歴史、そして、インドネシアとオランダの両方にルーツがあり現在オランダに暮らす人々の声を聴くこともでき、ファン・アッペ美術館の取り組みがこのツアーにも大きく反映されていると感じた。

今回、実際にファン・アッペ美術館を訪問することは叶っていないが、それでも、ここまで展覧会の内容に思いを寄せ、語り手や作者たちの思いを想像する時間を過ごすことができたのは、アプリ Smartify による多言語での発信、テキストの掲載、いつでも何度でも繰り返し視聴できるという環境があったからではないかと感じる。Smartify のようなアプリを活用することで、博物館の展示を現地と遠隔の双方で体験する場合や、外出の難しい状況下にある人々にとっては、遠隔から視聴することにより、博物館資源によりアクセスしやすくなることが期待できる。今後は、実際の利用者たちの声を聴き、質的手法なども含めて研究をすすめていくことが肝要であろう。

近年では、デジタル技術の発達にともない、知覚、身体化された学習、デジタル技術の相互関係について論じられている (Ellsworth 2005)。モバイルメディ

アの普及は、オンラインとオフラインのインタラクションの境界を曖昧にしているという (Richardson 2011、Moore 2012)。フォルス (2013) は、ピンク (2012: 121) の言葉を引用して、Web ページやアプリなど私たちがオンライン上でかかわる可能性のあるプラットフォームは「仮想の場所として感じられる、単に境界のある視覚的な風景ではない。むしろそれらは、私たちが関わり、多感覚的、記憶的に知覚する様々な環境にまたがる場所の一部として必然的に経験される」(Pink 2012) として、ティーンエイジャーが博物館で学ぶための多感覚ルートについて研究をすすめた (Fors 2013)。コロナ禍を経て、VR や AR などの技術はますます発達し、オンラインとオフラインのインタラクションの境界はさらに曖昧になっているといえるかもしれない。

今回、筆者は、館内という実際の物理的な場で鑑賞の時間を共有したり対話をしたわけではない。それでも、アプリを用いてのオンラインツアーの視聴は、それはたとえば読書のように、自分のペースで、自分では想像もしなかった言葉や思いに出会うことのできた時間だった。博物館で出会うのが、博物館側の文脈や、一緒に行く家族や友人など慣れ親しんだ人たちとの文脈だけでなく、普段は出会うことのない人々の、しかも多様な人々の語りに出会うことで、一つの展覧会においても、複数の視点の存在を感じることができた—しかも、遠隔の地で。

Chen (2022) によれば、デジタル・プラットフォームは博物館と訪問者が密接につながるための重要な機会を提供するものであり、Bring-your-own-device により、博物館は来館者と一対一でつながり、来館者の多様なニーズに応え、これまで顧みられなかった人々へのサービスも充実させることができるという。

Smartify にはスキャン機能もあり、博物館内の作品にスマートフォンのカメラを向けてスキャンすると、その作品のオーディオツアーが流れ、ヘッドフォンやイヤフォンをつけて聴くことができ、また、そのテキストもスマートフォンの画面上に表示される<sup>(15)</sup>。筆者は今回、スキャン機能を使用できていないが、デ

デジタル・プラットフォームの登場により、博物館体験の可能性は、これからますます大きくなるだろう。たとえば、前述の Chen (2022) は、ウェブカメラやインタラクティブデバイスを使用して体性感覚インタラクションを実現し、インタラクティブな展示デザインスキムを改善することを提案している。Smartify のようなアプリをもちいた学びについては、今後、知覚—身体—学び—デジタルの相互関係の研究においても重要なテーマになるだろう。

視覚に障害のある人の博物館利用に向けては、ファン・アッペ美術館だけでなく、たとえば、王立ホロウェイピクチャギャラリーでも、Covid-19 パンデミック以前から取り組んでおり、2020年6月には Smartify で音声説明付きツアーが開始された (Eardley et al. 2022)。この当時は、Smartify に 2 つしかない音声説明付きツアーの一つであり、その後、Times Higher Education Awards 2021 の “Outstanding Contribution to Equality, Diversity and Inclusion” 部門の最終選考に残ったという (Eardley et al. 2022)。これまでの日本国内の実践研究においては、視覚に障害のある人の博物館利用に向けては、情報提供の際の、音声、テキストデータ、点字、拡大墨字の重要性が指摘されてきた (たとえば、島ほか 2021)。アプリ Smartify においては、音声とテキストデータを利用できるほか、スマートフォンの機能をもちいてテキスト文字を拡大して閲覧したり、VoiceOver をもちいたテキスト情報の読み上げも可能であり、博物館アクセシビリティの向上が見込まれる。実際、視覚に障害のある人の Smartify 利用の報告がブログでなされており、トンプソン氏は、自身の美術館での体験の仕方が Smartify 活用により完全に変わった (自分自身で楽しむことができるようになった) と、自身のブログで報告している (Thompson, 2021)。

また、アプリ画面上に手話の動画を掲載し、さらに手話動画の下に文字情報を掲載することが可能であり、聴覚に障害のある人へ情報を届けることもできる。いつでもどこからでも作品にアクセスできるため、物理的に博物館を訪れることが難しい状況にある人々に

も、また、実際来館する場合においても、来館前、来館中、来館後にもアクセスできるため、事前の準備や、当日の作品との対面、帰宅後のふりかえりにおいても、作品に出会い、作品の「物語を聴いたり読んだりすることができる」 (Museum Next 2021) だろう。

一方で、視覚障害教育に長年取り組んできた鳥山由子氏 (2017) の指摘「さわりながら聞くことは難しい」については、今後、Smartif などのアプリを活用した実践研究を重ねることで、課題として向き合い検討していく必要があるだろう。同時に、デジタルデバイドの問題についても、引き続き検討していく必要がある。また、コロナ禍においては盲ろうの方の、たとえば盲ろう者友の会の学習会の長期中止など、より困難な状況にあったことも報告されており、コロナ後の博物館利用の機会の可能性を広げるものとしてもスマートフォンなどのタブレットアプリの可能性に注目していきたい。

## 附記

本報告は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2119 の支援を受けて行われたものである。

## 註

- (1) 総務省令和 3 年版情報通信白書に、デジタルトランスフォーメーションの定義が記載されている。  
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd112210.html> (2022 年 9 月検索)
- (2) ミュージアム・ネクストは、2009 年にイギリスで設立された。毎年約 100 万人の閲覧があるという。  
<https://www.museumnext.com/> (2022 年 5 月検索)
- (3) Smartify  
<https://smartify.org/> (2022 年 5 月検索)
- (4) 2022 年 9 月 7 日時点。日本語の文献は 1 つヒットしたが、海外の博物館での Smartify 利用事例を日本語で報告したものであり、日本国内の館での実践を報告したものでなかった。
- (5) Van Abbe Museum “Who we are”

- 
- <https://vanabbemuseum.nl/en/about-themuseum/organisation/who-we-are/> (2022年9月検索)  
Van Abbe Museum “About the museum”  
<https://vanabbemuseum.nl/en/museum/about-the-museum> (2023年4月検索)
- (6) Van Abbe Museum “Delinking and Relinking - Multi-sensory collection display” <https://vanabbemuseum.nl/en/programme/programme/delinking-and-relinking/> (2022年9月検索)  
<https://vanabbemuseum.nl/en/see-and-do/exhibitions-activities/delinking-and-relinking> (2023年4月検索)
- (7) イントロダクション・ツアー  
<https://smartify.org/tours/introduction-tour> (2022年9月検索)
- (8) ファミリー・ツアー  
<https://smartify.org/tours/family-tour> (2022年9月検索)
- (9) ラブレター・ツアー  
<https://smartify.org/tours/love-letters-tour> (2022年9月検索)
- (10) 身体的出会いのツアー  
<https://smartify.org/tours/bodily-encounters-tour> (2022年9月検索)
- (11) より広い視野での物語ツアー  
<https://smartify.org/tours/broader-story-tour> (2022年9月検索)
- (12) 多感覚アート作品  
<https://smartify.org/tours/multisensory-trail> (2022年9月検索)
- (13) ファン・アッベ美術館での展覧会「ポジション #7 価値あるものはすべて、他の人と一緒に行うもの」 (“Positions #7 Everhthing worthwhile is done with other people”)  
<https://vanabbemuseum.nl/en/see-and-do/exhibitions-activities/positions-7> (2023年4月検索)
- (14) e-flux は、1999年にアーティストによって開始された。

オンライン版 e-flux.com は、アート、建築、映画、理論における批評的言説の多くの系統にまたがる。詳細は以下の URL を参照。

<https://www.e-flux.com/about> (2023年4月検索)

- (15) スコットランド国立美術館でも Smartify を利用しており、同館の Web サイトでは、作品前で Smartify のスキャン機能をどのように使うか説明しているページがある。以下がその URL。

<https://www.nationalgalleries.org/art-and-artists/features/smartify-artwork-recognition-your-phone> (2023年4月検索)

## 引用文献

- Chen, Boyuan & Lan, Shuai 2022 “Research on Museum Educational Display Based on Image Recognition Tracking” WIRELESS COMMUNICATIONS & MOBILE COMPUTING pp.1-9.
- Eardley, A.F., Thompson, H. Fineman, A., Hutchinson, R., Bywood, L. & Cock, M. 2022 “Devisualizing the Museum: From Access to Inclusion” Journal of Museum Education 47-2, pp.150-165.
- Ellsworth, E. 2005. Places of Learning. New York: Routledge.
- Falk, H. John & Dierking, D. Lynn 2000 Learning from Museums: Visitor Experience and the Making of Meaning. California: Altamira Press.
- Fors, V. 2013 “Teenagers’ Multisensory Routes for Learning in the Museum: Pedagogical affordances and constraints for dwelling in the Museum” Senses and Society 8-3, pp.268-289.
- Guggenheim Collect Online “Lucio Fontana / Concetto spaziale, Attesse.”  
<https://www.guggenheim.org/artwork/1334> (2023年4月検索)
- ICOM 2022 “Museum Definition.”  
<https://icom.museum/en/resources/standards-guidelines/museum-definition/> (2022年9月検索)
- McGivern, H. 2020 Decolonising museums: the new

- network opening up the diversity debate in the Netherlands. <https://www.theartnewspaper.com/2020/07/06/decolonising-museums-the-new-network-opening-up-the-diversity-debate-in-the-netherlands> (2022年9月検索)
- Monntman, N. 2021 “Small-scale art organizations as participatory platforms for decolonizing practices and sensibilities” *Journal of Aesthetics & Culture* 13-1, pp.1-9.
- Moore, S. 2012 *Media, Practice & Mobility*. Basingstoke: Palgrave Macmillan.
- Murphy, Adrian 2021a “Smartify launches new museum marketplace”. <https://www.museumnext.com/article/smartify-launches-new-museum-marketplace/> (2022年9月検索)
- Murphy, Adrian 2021b “Van Abbemuseum launches the Netherlands’ first, fully multi-sensory exhibition.” <https://www.museumnext.com/article/van-abbemuseum-launches-the-netherlands-first-fully-multi-sensory-exhibition/> (2022年9月検索)
- Museum Next 2021 “Smartify at the Van Abbemuseum: creating a multi-layered visit.” <https://www.museumnext.com/article/smartify-at-the-van-abbemuseum-creating-a-multi-layered-visit/> (2022年9月検索)
- PANDAID 「文化を楽しむ」 <https://www.pandaaid.jp/stayhome/culture> (2022年9月検索)
- Pink, S. 2012 “Visual Ethnography and the Internet: Visuality, Virtuality and the Spatial Turn.” In S. Pink (ed.), *Advances in Visual Methodology*, pp. 113-130. London: Sage.
- Richardson, I. 2011 “The Hybrid Ontology of Mobile Gaming.” *Convergence: The International Journal of Research into New Media Technologies* 17-4, pp. 419-430.
- 島 絵里子・土屋順子, 佐々木とき子 2021 「科学博物館における「さわる展示」を紹介する点字冊子の作成と課題—視覚障害者へ開かれた博物館への取り組み—」『日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要』第25巻 日本ミュージアム・マネジメント学会 pp.39-47.
- 島絵里子 2022 「ミュージアムが姿・形を変えてあらゆる人々のところに飛び込んでいくための一提案：物理的（フィジカル）形態とデジタル形態を組み合わせる」。『日本の博物館のこれからⅢ&Ⅳ—博物館法改正を巡る議論—』 大阪市立自然史博物館 pp.127-158.
- Smartify 2022a “Mission Statement” <https://about.smartify.org/about-us/mission-statement> (2022年9月検索)
- Smartify 2022b “Case Studies” <https://about.smartify.org/case-studies> (2022年9月検索)
- Thompson, Hannah 2021 Smartify at the Bowes Museum. <http://hannah-thompson.blogspot.com/2021/08/smartify-at-bowes-museum.html> (2022年9月検索)
- 鳥山由子 2017 『視覚障害指導法の理論と実際—特別支援教育における視覚障害教育の専門性—(オンデマンド版)』 ジアース教育新社.
- UNESCO 2015 『ミュージアムとコレクションの保存活用, その多様性と社会における役割に関する勧告』 ICOM 日本委員会訳.
- 八巻香澄 2022 「これまで聴こえていなかった声を響かせるために アムステルダムミュージアムに見る複数の視点」『2021年度東京都現代美術館年報研究紀要』第24号 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 pp.164-172.

